第127号
2024年1月18日 発行
発行責任　工藤 忠男
銚子ジオパーク市民の会
URL☞ https://choshigeopark.com

2024年の銚子ジオパーク市民の会について

会長　工藤　忠男

新年おめでとうございます。

昨年は、銚子ジオパーク始まって以来のイベント、日本ジオパーク全国大会が銚子で行われました。市民の会の皆様には銚子ジオパーク推進協議会の構成団体として、推進協議会事務局と一緒になり、ジオガイド等、活躍していただきました。全国の皆様にも銚子ジオパーク市民の会の活動は高い評価を頂きました。

この経験を次につなげられていけたらと思います。

銚子ジオパーク市民の会は2011年2月14日に発会以来、12年が経ちました。発会時に比べて会員数も増え、活動内容も、推進協議会が行う、学校に対する学習支援や観光客に対するガイドなどの協力は勿論のこと、市民の会で定期的に実施される勉強会も、より充実してきています。また、ジオパークの保全活動の一つ、海岸清掃も他の団体と一緒に市民の会の発足時から続いています。最近は月2回と回数は増えましたが、より海岸のゴミが少なくなってきたのを感じます。今後もこれらの活動を続けていけたらと思います。

今年秋には4年に一度の再認定審査があります。推進協議会と協力し再認定審査を合格させましょう。

チバニアン・養老渓谷バスツアー

松家　英彦

12月5日に表題のバスツアーを勉強会主催で行いました。

2020年1月にチバニアンが世界標準となる地質年代境界模式地（GSSP）として認定され、昨年5月に地層年代境界のシンボルとなるゴールデンスパイクが設置されました。

昨年、チバニアン訪問を計画しましたが、コロナ渦で延期となり、今回に至りました。

チバニアンの現地には、田淵チバニアンズガイドの園田さんに丁寧な説明をして頂き、その中で我々の馴染みのある伊能忠敬の方位測定における磁気のお話など興味深い話がありました。そして、養老川沿いの泥岩の崖にある白尾火山灰層にGSSPの証となるゴールデンスパイクが設置され、まじかで見ることができました。思ったより大きく堂々としていました。今年の9月に台風13号の大雨で養老川の水位が上昇し、チバニアンの壁が水没したとのこと。これによって近くの樹木が流され、階段などが崩されたとのことでしたが、幸いチバニアンの壁は影響がなかったとのことでした。その他に養老川の河床には貝化石を観察できました。また、川廻しや庚申塔など歴史的な話も伺いました。

ガイド後、近くの田淵会館で田淵チバニアンズの石井代表他2名の方々と1時間ほど情報交換をしました。令和7年度末にガイダンス施設が作られるとのことで楽しみです。

その後、養老渓谷観光センターに移動し、昼食を摂り、遠見の滝や懸崖境のもみじの紅葉を楽しみ、帰途につきました。

チバニアンゴールデンスパイク前

銚子ジオパーク市民の会バスツアーに参加して

ナルク銚子　小澤　利政

ジオパーク関係の知人（白土紀子さん）より表記のバスツアーのお誘いがありました。

チバニアン・紅葉の養老渓谷見学会とのこと。当日はカレンダーも空白、予定がありません。久しぶりの息抜き、気分転換と思い参加しました。

以前からマスコミなどでチバニアンの言葉は聞いていましたが、地球のS極とN極がひっくり返っていた時代があったらしい？その程度で詳しくは理解しておりませんでした。

脛まで覆う長靴を準備してくださいとのことでしたので覚悟をして参加しました。

2時間ちょっとで市原市田淵のチバニアンビジターセンターに到着。早速長靴に履き替え、養老川流域の地磁気逆転地層の現地へ。坂を下っていくのですが途中、先日房総方面を襲った暴風雨の爪痕、養老川の水嵩があんなに高いところまで到達したのかと思われる目印があってこの地域の災害の恐ろしさを理解することになりました。さぞ荒れているだろうなと思いながら現場へ。77万4千年前の地層とのことですが私の頭ではとても理解できません。

確か今年の春にナルクのウォーキングクラブのメンバーと高田川周辺を歩いた時にも規模は違いますが同じような地磁気逆転地層の標識があって地下で繋がっているようなことが書いてあったことを思い出し、もう少し地元のことも勉強しなければと思いながら帰途につきました。